

## 3. 防災まちづくりの目標

### (1) 目指す将来像

#### レトロでモダン そして安心 紫野

私たちが暮らす紫野学区は、数多くの歴史・文化資源を有するとともに、京都らしい昔ながらの町並みの風情が残り、路地のある暮らしの中で培われた住民のコミュニティがしっかりと息づいているなど、静かで暮らしやすいまちです。

一方で、狭い路地や袋路、古い木造家屋が多い、空き家の増加などにより、地震時等に、建物の倒壊や避難経路の閉塞、大規模火災の恐れなど、密集市街地ならではの課題を抱えています。

先人達が守り・育ててきた古き良き紫野学区の魅力を、私達や将来を担う子ども達とともに、未来へ引き継ぎ、安心して暮らすためには、まちの安全性を高めていくことが不可欠です。

そのため、紫野学区では、長い年月の中で培われた歴史的背景を土台としつつ、安全な避難経路の確保や建物の防災性の向上など基本的な取組を推進していくとともに、現代的な技術や新しい発想、新しい視点などを柔軟に取り入れ、いつまでも安心して暮らすことのできるまちをみんなで協力しながらつくっていくことを防災まちづくり計画の目標とします。

### (2) 防災まちづくりの基本方針

#### 『みち』

【方針1】 広域的な災害活動を支える骨格となる道の防災性を高める

【方針2】 住民の避難や災害活動を支える学区内の主要な道の防災性を高める

【方針3】 主要な道に安全に避難できるよう路地の防災性を高める

#### 『いえ』

【方針1】 災害時に倒れない・燃えにくい家をつくる

【方針2】 地域が連携して空き家対策に取り組む

#### 『まち』

【方針1】 紫野の風情を守りつつ路地の防災性を高める

【方針2】 災害時に役立つ身近なオープンスペース（広場空間）をつくる

【方針3】 路地や街区単位で一体的に防災対策に取り組む

#### 『コミュニティ』

【方針1】 防災に関する意識を高め、地域の力によって身近な防災性を高める

【方針2】 地域が連携するため、コミュニティをしっかりと築く

# 『みち』

## ■基本方針

### 【方針1】 広域的な災害活動を支える骨格となる道の防災性を高める

- 北大路通や堀川通などの市の骨格となる幹線道路は、災害時の広域的な避難や災害活動の場などとしての機能を確保するため、沿道の建物の防災性を高めます。

### 【具体的な取組の例】

- ・沿道の建物の耐震・防火改修

### 【方針2】 住民の避難や災害活動を支える学区内の主要な道の防災性を高める

- 鞍馬口通や船岡東通などの学区内の主要な道は、緊急車両の通行や災害活動の場、避難所である紫野小学校への避難経路、また、火災時の延焼防止帯などとして、沿道の建物の防災性を高めます。

- ・沿道の建物の耐震・防火改修
- ・骨格となる道から主要な道への入口部分の隅切りや広場空間の確保
- ・災害時に緊急車両が通行できる道（概ね幅員6m）の確保

### 【方針3】 主要な道に安全に避難できるよう路地の防災性を高める

- 災害時に迅速に避難できるよう、一人ひとりが広い道や地域集合場所までの避難経路を確認します。
- 紫野学区には、幅員4m未満の狭い路地や袋路、入り組んだ路地が多いため、路地ごとの特性・課題に応じた取組を進め、避難しやすい路地をつくります。

- ・自宅から地域集合場所までの避難経路を実際に歩き、安全性を確認
- ・複数の避難ルート of 想定
- ・沿道の建物の耐震・防火改修
- ・路地の拡幅整備、建替え等に合わせた敷地の後退
- ・袋路の2方向避難の確保、袋路始端部の耐震・防火改修
- ・危険なブロック塀の改善
- ・自転車や植木等を無造作に置かない、燃えやすい物を置かないなど路地の適正管理

### 住民意見交換会で出された主な意見

- 火災は心配なので、道は広い方が良い
- 電柱がなければ、道も少し広がる
- 建勲北通は、普段よく通り抜けするため、防災上重要な道として位置づけたい
- ひび割れていて危険なブロック塀がある
- 補助金があれば、ブロック塀の改修や避難用扉を設置しても良い
- 袋路奥への通り抜けを地権者に交渉したい



# 『いえ』

## ■基本方針

### 【方針1】災害時に倒れない・燃えにくい家をつくる

- 日常的に防災に対する意識を持ち、一人ひとりが身近な防災対策に取り組みます。
- 災害時における住民の生命・財産を守るとともに、安全な避難経路の確保や火災の発生・延焼を防止するため、耐震・防火改修の必要性や市の助成制度等をPRしながら、学区全体で倒れない・燃えにくい家づくりを進めます。

### 【具体的な取組の例】

- ・家具の転倒防止器具の設置等の建物内での安全対策
- ・建物の耐震診断を受ける
- ・建物の耐震・防火改修
- ・住宅用火災報知機、感震ブレーカー等の設置
- ・紫野まつりや避難訓練等を利用した情報発信・周知活動
- ・防災に関するセミナーの開催

### 【方針2】地域が連携して空き家対策に取り組む

- 空き家の所有者は、老朽化や庭木の繁茂などによって周囲に防災や防犯・景観上の影響を与えないよう、適切に管理します。
- 空き家の状況を地域で把握するとともに、地権者や居住者に対して空き家の発生予防を呼び掛けます。
- 空き家の活用を進める際には、地域とのコミュニケーションに配慮します。
- 老朽化した空き家に関しては、京都市とも連携しながら適切に対応します。

- ・空き家所有者への適正管理の呼び掛け
- ・各町内での空き家の把握、空き家パトロール
- ・空き家の利活用
- ・民泊業者と地域との協定(町内会への加入、適正管理の働き掛け、災害時の連絡体制の確認等)
- ・老朽空き家の除却

### 住民意見交換会で出された主な意見

- 高齢者は経済的に建替えが難しい
- 所有者がいない空き家にどう対応していくかが問題
- 空き家を活用するため、空き家バンクができないか
- 空き家が民泊化しており、地域との連携が取れていないものもある
- 民泊を帰宅困難者の対策に活用できないか



# 『まち』

## ■基本方針

### 【方針1】紫野の風情を守りつつ路地の防災性を高める

- 京町家が残る、親密な距離感、通過交通がなく静かで暮らしやすいなど、路地が醸し出す紫野の魅力を維持・継承するため、路地のある町並みを保全しつつ建替え等がしやすいルールづくりに取り組みます。

### 【具体的な取組の例】

- ・路地や街区単位の将来像を地域で話し合う
- ・非道路の道路化、建替え時の敷地後退距離の緩和（建替え等がしやすい道にする）
- ・町並み保全のルールづくり

### 【方針2】災害時に役立つ身近なオープンスペース（広場空間）をつくる

- 既存のオープンスペースは、災害時の地域集合場所や、延焼防止の空間などとしての活用を考えます。
- 路地や建物が密集している地区などを中心に、身近な広場空間の整備を進めます。
- 地域集合場所は、災害時の安否確認や応急救護の場でもあるため、集合場所周辺の防災性を高めます。

- ・空き地や駐車場等の所有者にオープンスペースとしての活用を働き掛ける
- ・空き地や老朽建物の除却跡地等を利用した防災ひろばの整備
- ・地域集合場所周辺の建物の耐震・防火改修、ブロック塀の改善

### 【方針3】路地や街区単位で一体的に防災対策に取り組む

- 幅員の狭い路地や袋路、狭小な宅地が集中する地区などでは、個々の改善では抜本的な防災性の向上が困難であるため、路地や街区ごとの特性を踏まえつつ、避難経路の確保や道の拡幅、建替えの促進、広場空間の確保などに一体的に取り組めます。

- ・路地や街区単位の将来像を地域で話し合う
- ・一体的・総合的な改善手法の検討（路地や敷地の組み換え、共同建替えなど）

### 住民意見交換会で出された主な意見

- 狭い路地や古い京町家がみられるが、まちの良さでもあり、守っていききたい
- 公園が少なく、活用できる空き地も少ない
- 連棟で建替えがしにくく、火事が心配
- 狭い土地では、建替え時にセットバックすると、ガレージも取れないほど狭くなってしまふ
- 共同化などの大規模な改変よりも、今やれることからやっていくべき





# 『コミュニティ』

## ■基本方針

### 【方針1】防災に関する意識を高め、地域の力によって身近な防災性を高める

- 一人ひとりが日常的な防災意識を高めるため、防災まちづくりに関する取組や各種制度・助成メニューなどの情報発信を行います。
- いざという時に迅速に対応できるよう、避難誘導や連絡体制の確立、防災用資機材の備えなどに各町で取り組み、身近な防災力を高めます。
- 各町の地域集合場所は、周辺の建物や路地の安全性、高齢化等の状況等を踏まえて、適切に見直すとともに、住民への周知徹底を行います。
- マンションでは、建物が丈夫、敷地が広いなどの強みを活かした災害時の備えを進めます。

### 【具体的な取組の例】

- ・一人ひとりが防災への関心を持つ
- ・災害時の避難先や連絡方法等について、各家庭での話し合い
- ・非常用持出袋や非常食など、各家庭での備え
- ・紫野まつりや防災訓練等の場を利用した情報発信
- ・防災まちづくりに関するセミナーや勉強会の開催
- ・高齢者の世帯等を各町で把握
- ・避難誘導や安否確認方法等について各町でルールづくり
- ・緊急連絡・情報伝達体制の整備
- ・消火器や防災倉庫等の設置
- ・地域集合場所の見直し
- ・地域集合場所への看板の設置
- ・マンション独自の防災対策

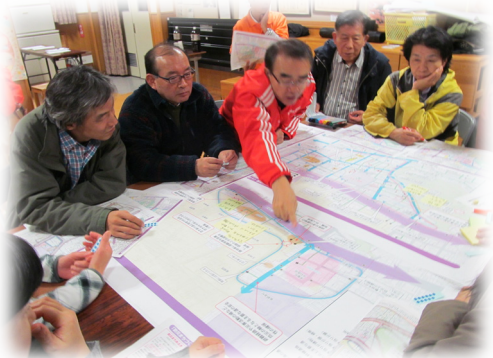
### 【方針2】地域が連携するため、コミュニティをしっかりと築く

- 災害時に支え合う環境をつくるため、町内会やマンション住民等が互いに日常的なコミュニケーションを築き、顔の見えるまちづくりを進めます。
- 紫野学区にはお寺や事業所が多いことから、日頃から良好な関係を築きながら、防災まちづくりの取組への理解を求めています。

- ・普段からの近所への声掛け
- ・地藏盆等の場を利用した各町での防災に関する話し合い
- ・町単位での防災訓練の実施
- ・町内会への加入促進
- ・町内会からマンション住民への声掛け
- ・マンションどうしの話し合い
- ・お寺への避難経路の確保や空き家対策等の働き掛け
- ・事業所との災害時協力協定

### 住民意見交換会で出された主な意見

- まずは防災意識を高めることが必要
- 防災に関する町内での話し合いが必要
- 独居高齢者は町内で把握し、情報を共有しておく
- コンビニやスーパーなどの店舗と協力協定の締結
- 防災バケツや消火器、防災グッズの備蓄が必要
- マンションに町内会への加入をお願いしている
- マンション住民とのコミュニティをしっかりと築いておく必要がある
- マンション内で防災の組織づくりを行う予定





# 紫野学区防災まちづくり方針図

凡 例	
	幅員4.0m以上の道
	幅員1.8m以上4.0m未満の道
	幅員1.8m未満の道
	袋路(突き当りが建物)
	袋路(突き当りが塀・柵等)
	袋路(突き当りが扉)
	トンネル路地
	公園
	公共公益施設
	寺社
	紫野学区



町内会を構成している大規模なマンション
土地区画整理事業が行われたが路地が多いエリア
土地区画整理事業で広い道が整備されたが路地や木造家屋が密集するエリア
土地区画整理事業が行われず、路地が入り組み、木造家屋が密集するエリア
船岡山周辺のエリア
⇄ 防災の軸となる幹線道路
 ⇄ 学区内の防災上主要な道